

ユニセフ T・NET 通信

2010 SPRING

No.45

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ http://www.unicef.or.jp

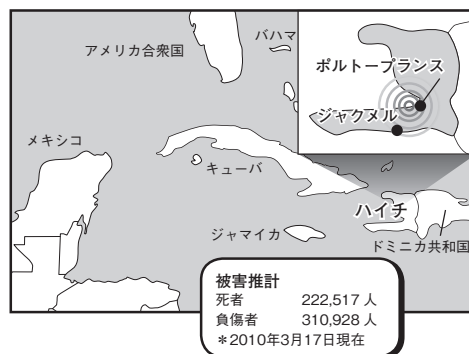
募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

ハイチ大地震 ユニセフ支援報告

最貧国の子どもたちが犠牲に 子どもたちの緊急事態

2010年1月12日夕方、カリブ海の島国ハイチで発生したマグニチュード7.0の大地震は、ハイチの人々にかつてない大規模な被害をもたらしました。ハイチの人口の40パーセント近くは14歳未満の子どもたちです。最も弱い立場に立たされている子どもたちを救うため、ユニセフは、現在、他の国際機関やNGOなどと協力し、安全な水と衛生環境の確保、家族を失った子どもたちの保護、幼い子どもたちへの予防接種などの支援活動に全力で取り組んでいます。

©UNICEF/NYHQ2010-0022/LeMoyne
避難テントの前にたたずむ子どもたち。地震で崩れた大統領官邸の前の広場には家を失った約5万人の人々が避難している



一刻も早く支援物資を現地へ

今回発生した大地震は、ハイチの人々にとって予期せぬ未曾有の震災でした。死者は20万人を上回り、被災者は人口の3分の1以上のおよそ350万人に達するとみられています。犠牲者の数は、2004年のスマトラ沖大地震・津波に相当する甚大な被害です。ユニセフは、被災地の一つの港町ジャクメルで国連の食糧配布が行われるのに合わせて、ハイチ国内に日頃より備蓄していた飲料水や簡易調理器具などを配布しました。大きな被害を受けた首都ポルトープランスの空港は、人道支援目的のみに解放されましたが、各国からの救援機による混雑が懸念されました。そのため、コペン



©UNICEF/NYHQ2010-0055/LeMoyne
ポルトープランスの空港でトラックから救援物資を降ろすユニセフスタッフ

ハーゲンの物資供給センターからは隣国ドミニカ共和国の首都サント・ドミンゴを経由してトラックで、また、パナマの緊急支援用倉庫から

は船による輸送など、陸海空路を駆使して被災地に続々と浄水剤やビニールシート、テント、下痢性疾患対策としての経口補水塩などの支援物資が到着しました。

“異例”の大震災 最貧国をおそった惨事

地震の前からハイチでは、武力衝突による治安悪化、政情不安、社会インフラの崩壊、貧困、HIV/エイズの蔓延など、さまざまな問題が山積していました。また、近年はハリケーンや洪水など自然災害にも相次いで見舞われていました。ハイチは、乳児死亡率、5歳未満児死亡率、妊産婦死亡率が西半球で最も高く、子どもの命が危険にさらされている国です。今回の地震は、そのような状況に追い討ちをかける悲劇だったのです。人口密度が高いハイチでは、緊急時の伝染病の発生も懸念されています。また、毎年数千人の子どもたちが人身売買や不当な養子縁組にまきこまれています。ユニセフは地震発生直後から人身売買の危険を指摘し、ハイチ社会省と協力して、子どもたちが不法に国外に連れ出されないよう、空港での監視を始めました。

ユニセフの活動

～ユニセフは、これまで主に以下の分野で重点的に活動しています～

水と衛生

ハイチでは、地震が起きる前から水の環境が悪く、安全な飲料水を利用できる人は、国民のおよそ半数にすぎませんでした。下痢や水を媒介する病気などの二次災害を防ぐため、安全な水の確保は不可欠です。ユニセフは、ハイチの水道当局と協力して、避難場所を中心に給水拠点を設置しました。また、一基あたり5,000から1万リットルの貯水能力のある仮設給水タンクの設置や、病院や孤児院を優先的に飲料水の供給を急いでいます。また、仮設トイレの設置、石けんなどの衛生用品の配布も行っています。



© UNICEF/NYHQ2010-0039/LeMoyne
避難所で洗濯をする被災者たち。後方では、人々が長い列をつくり、水の配給を待っている。

子どもの保護

ユニセフは、震災で孤児となった子どもや親と離ればなれになった子どもを発見し、登録するための調査をポルトープランスの児童養護施設で行いました。そして「子どもに優しい安全な空間」を設置し、子どもたちを保護しています。子どもと親や親類者との再会事業は、時間がかかり、忍耐のいる活動です。



© UNICEF/NYHQ2010-0031/LeMoyne
被災者たちから話を聞くユニセフの広報官

保健

ユニセフは保健省と協力し、7歳未満の子どもたちを対象に、はしか、破傷風、ジフテリア、百日咳などの予防接種を行っています。予防接種キャンペーンの第一弾は、ポルトープランスの街の中心部にあるサッカースタジアムから始まりました。被災者ですし詰め状態となっている他の避難キャンプでも実施していく予定です。



© UNICEF/NYHQ2010-0142/Noorani
予防接種を受ける女の子

栄養

急性栄養不良の予防策として、食糧配給に合わせて治療用の栄養補助食の配布、避難所などで乳児をもつ母親たちに母乳や離乳食など赤ちゃんに優しい食事についての教育活動を実施しています。また、授乳のためのプライベートな空間を設け、カウンセリングを提供する「赤ちゃんに優しい」避難テントを各地に設置しています。



© UNICEF/NYHQ2010-0181/Noorani
「赤ちゃんに優しい」避難テントで看護婦とともに4ヶ月の赤ちゃんへの母乳の与え方を復習するお母さん

教育

ハイチ教育省によると、ポルトープランス西部の80パーセント、南東部の35～40パーセントの学校、あわせて約5,000校が全半壊したとみられています。子どもたちに一日も早く「安心感」と「日常」を取り戻すために、そして緊急事態下でも子どもたちが学習を再開できるように、40人分の文房具などが入った教材セット「スクール・イン・ア・ボックス(箱の中の学校)」の配布を始めています。また、児童養護施設や保育所などにもおもちゃや学習用品などが入った早期幼児開発ケアキットを届けています。



© UNICEF/NYHQ2010-0201/Noorani
被災地の一つジャクメル村で学校の再開初日、ユニセフのテントの学校で先生から文房具を受け取る子どもたち

.....
今回のハイチ大地震では、ユニセフ現地事務所の建物も被害を受けたため、職員の安全確認と運営拠点を移転して衛星電話の回線を整えることから活動は始まりました。ユニセフは、各地から応援スタッフを招集して支援活動を広げています。復興までの道筋が見えない状況にあるハイチを震災前よりも力強い国へ建て直すため、また懸命に生き延びようとしている子どもたちに日常を取り戻すことを目指し、ユニセフは支援を続けていきます。
.....

●●● ハイチ地震緊急・復興支援募金 ●●●

ユニセフはハイチでの活動資金として1億7,275万7,000米ドル(日本円で約158億9,400万円)の支援を国際社会によびかけています。日本ユニセフ協会では、ハイチ地震緊急・復興支援募金を受け付けています。ハイチの子どもたちが平和な日常を取り戻せるように、みなさまからのあたたかいご支援をよろしく願っています。

郵便局(ゆうちょ銀行)振替口座: 00190-5-31000

口座名義: 財団法人 日本ユニセフ協会
通信欄に「ハイチ」とご明記ください。

※送金手数料は免除されます。